

行動が意識を変える！ まずは動き出す、そこから悩んだり工夫が始まる。支えるのは学びと対話と仲間。



【1番印象に残ったことと理由】

(R5.8 枚方市教育委員会 教職員課 高山和子 作成)

- スライドに映る先生方の笑顔。取組が進んでいることを実感しました。
- 心から働き方改革をしたいという意志が大事。皆が本気で働き方改革をするという気持ちがないと難しいと思った。管理職と職員が一つになって進めていかなくは、改革はできない。しっかりと話し合うことで進めていきたい。
- 業務改善委員会の設置。本校、意外とできてるやんと思ったものの、まだまだやれることがあると思った。
- 自立自走する組織をつくっていく。協働する仲間を増やしていく。みんなの意見を元に進めていく。管理職が、何か示さなければと考え過ぎていたことに気づかせてもらった。
- 教師を続ける原動力は楽しさですという言葉。改めて初心に戻りました、職員全員が楽しく仕事を続けられるよう、働き方改革を進めたいと思いました。一つひとつは小さなことでも変化や効果が実感できるような取組をみんなでみつけていきたいです。
- 本気で働き方改革を考え主体的に取り組むことが、教職員にとっても子どもにとっても充実した教育につながるということ。正直、働き方改革が教育の質を落とすことにつながるのではないかと懸念していたため。
- 考える→決める→実行する「あなたが行動するかしないか」というところで、自分の裁量でできることがたくさんあることを知り、これまで「考える」にとどまり、やってこなかったのだということに気付いた。
- 働き方改革を職員みんなで話し合っ、つくりあげること。そういう取り組みをしたいと思っていたので、実際行い、実現している自治体がすでにあることに感銘を受けた。
- 管理職が頑張っても、職員が動かなければ、やらされてるに過ぎず、負担に感じれば何も変わらない。だから、職員自身が変えなければと取り組もうとする意欲がもてる投げかけや実現できる環境づくりが管理職の仕事だと感じた。

あなたの組織はどちらに近いですか？



「ともに」考え・実行し、悩んだり、喜んだり、さらに改善する組織へ。「自分たちの働き方を自分たちで見直す」ことは、達成感が伴い、次へのモチベーションにもなります。業務改善等を考える場については、まずは既存の企画委員会等を活用する・校務分掌に新たに位置づける・推進リーダー任命型・やりたい人集まれの立候補型・・・等、校長先生の方針によって様々です。まずはそのメンバーのベクトル合わせ→行動→じわじわと全体の意識向上へ。

話し合うことが「step 0 (ゼロ)」



【自校の取組を進める上で、どのようなことをしたいと思ったか】

- 職員間で、今回の資料を活用して、まずは意見を出し合いたい!と考えている。できることを探して具体化したい。
- 働き方改革チームを発足させたい。また働き方改革の成果はウェルビーイングの実現につながることを伝え、意識改革も進めたい。
- 多様な人材を集めた改善委員会を立ち上げ、案がまとまった時点で、学校経営委員会に図り、できることからすぐに実行するサイクルを作りたい。
- 先生方の現状や意識や改革についてのアンケート
- スッキリした職員室、同僚性の更なる向上
- 会議の終了時刻の決定、共有。各自話は簡潔に。掲示板を確認する習慣をつける。
- 今までの取り組みは、働き方改革担当の教頭から指示される形で動いていましたが、教えていただいたように、職員から出てきたアイデアを積極的に取り入れるようにできたらと考えています。
- まずは、みんなで話すこと、そこで見つけたことをとにかくやってみたいです。時間のことだけにとらわれず、働きがい、やりがいを感じられるような小さな工夫をたくさん見つけて、実行していきたいと思います。

この研修の意義は、管理職の皆さまが、同じテーマで対話できたことにあります。その中で、「意外と進んでるかも!」と自信を持ったり、「それはどうやって進めたの?」と話ができたり…。次回は、実際何か行動したか?を交流できたら素敵ですね。最初はうまくいかないことの方が多いですが、うまく進む学校も出てきます。それを交流し「まねる」ことで、うまくいく学校が増えます。そういうことを何度も繰り返し良いスパイラルに乗っかると、楽しくなってきます。本市もまだまだ道半ばです。自治体は違いますが、教育を担う者としてよりよい学校職場づくりについて、共に取り組みましょう!



【全体を通して、気づきや考えたこと】

- 事例集をもとに、学校長と一緒に「どれがやりたい」と相談しながら研修をするスタイルが初体験で、とても楽しくワクワクしながら話し合いができた。
- 本気の本気で働き方改革を進めたい。本当にありがとうございました。必ず何かアクションをこの夏起こします。
- 本日の講演が明るい気持ちで聞いたことが何より良かった。良い意味で市教委に頼らず、校内の衆知を集めていきたいと思いました。
- 教員志望者の減少、メンタルで休む教員の増加から、働き方改革を進め、もう一度教員が人気のあるあこがれの職業となるよう、今取り組みを始めなければならないと強く感じた。
- 管理職になり、管理する立場の難しさを初めて知りました。担当課から言われたことをしているだけでなく、職員の心身の管理をしていくことが最重要課題だと改めて痛感しました。そのためには、自分自身も勉強していきたいと思いました。何より若い教員が多いので、働くことが楽しいと思えるような職場環境づくりに努めていきたいです。そのためにはやはり行動力、実行力をつけていきたいです。
- 「気づき、考え、実行する」子どもたちに育てたいと思っている私たち自身が、現状の問題点に気づき、全職員で策を考え、実践してみないと何も始まらないし変わらない。
- こどもの主体性、遊びへの意欲、自由で伸び伸びのした表現など、目指す子ども像はありながら、自分たち教職員はどうだったかを、顧みる機会となった「自分の仕事にプランとプライドをもつ」という言葉が心にさざりました。明日の職員会議では、私の意気込みや目指す方向性を示すとともに、職員一人一人の意識ややりたいことを少しずつ引き出していきたい。エネルギーをいただきました。
- 管理職だけでなく、教員や事務員からも意見を聞ける、出せるしほみを組織していきたいと思った。すべての教職員が元気な職場にしていきたい。たくさんの気づきを与えてもらいました。ありがとうございました。
- 主体的に考え行動することが必要であるということを実感した。教員を続ける上でのやりがいの実感のために楽しさをたくさん職員間で共有したい!と感じた。働き方改革に今までよりも前向きに取り組む気持ちになった。願いで終わらず、行動にうつす!を自分自身がまずは実行していきたい!
- 働き方改革を後押しする行政の存在も大きいと考えていたが、大切なのは、改革に対する教職員の内発的動機づけであると気づいた。